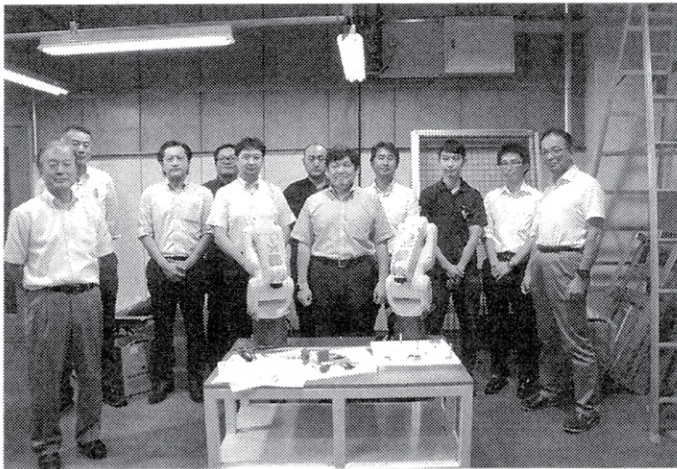


# 国際ロボ競技会に出場

## 市内8企業が「ものづくり」で競う



「Team Sagami-hara」のメンバーら

相模原の技術、世界に見せつけろ。市内企業などで構成する「Team Sagami-hara」は、ロボット技術を競う国際大会「ワールドロボットチャレンジ(WRC)」(17~21日、都内開催)に出場する。自治体の呼びかけで地域企業や大学の有志が集まったチームは珍しく、「日常の業務と現場で培った技術力や工夫で、どこまでできるかの挑戦だ」と意気込む。

### 「相模原」背負って世界へ

メンバーは、ロボットの関連部品を製造する企業、製造現場に導入した実績がある企業、プログラムや導入環境を構築するシステムインテグレーター(Sier)など、技術的な分野が異なる8社。メンバーとして玉川大工学部・岡田浩之教授の研究室も参画する。運営支援や活動場所の提供などで、市とさがみはら産業創造センター(SICC)が協力している。

参加する種目は、ものづくり部門の「製品組立チャレンジ」で、部品のピッキングやソーティング、組立など工業製品などの組み立てに必要な技術要素を含む。製造工程の完全自動化を想定した内容で、人手を一切介さずに与えられた課題をクリアすることが加点条件となる。国内外の大学や研究機関、ロボット関連企業のグループなど16チームが参加する。

ロボットアームは同大会スポンサーが提供するものか、自前で開発したものを使用。同チームはファナックから借りの受けものにも、参加企業が製作するロボットハンドとプログラムを組み合わせて出場する。

市産業政策課によると、現在のロボット技術では極めて難しい競技課題だという。特に今回の競技には、ロボットにとって扱いが難しい柔軟性のあるベルトが組み込まれており、「次回へのブルースルーが望まれているのでは」と推測する。困難な課題を解決することで、より大きなビジネスチャンスにつながる可能性もある。

MEMOテクノスの渡辺将文社長は、WRCの参加理由について「ロボット産業は自動車と同様、非常に裾野が広くな

### WRSが17日開催 先進技術にも注目

「ワールドロボットサミット」(WRS)は、経済産業省とNEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)が主催する国際的な展示会・競技会。17~21日まで都内で開かれるWRS2018は、20年に愛知県(10月)と福島県(8月、インフラ・災害対応力テクノロジー)で開催される。一部競技)で開催される。複数の中小企業が協力し、ネットワークを確固たるものにした」と語る。また、チームの今後について、「連合体としてのビジネス獲得が主な目的。象徴的な実績を糧に、大手の仕事にもほぼ同じ体制で臨めるはず」と期待する。

参加企業は次の通り。

- ▽愛知産業相模原事業(同)。
- ▽未来創造技術研究所(横浜市西区)▽MEMOテクノス(南区大野台1)▽リカルジョイント(同)。
- ▽永進テクノ(緑区下九沢)▽榎本機工(同区町屋1)▽F・Design(同区西橋本5)▽マイクロテック・ラボラトリ(南区上鶴間本町8)。

競技では、実際に各分野で抱えている課題や問題を解決するためのソリューションを国際大会という舞台で披露することになる。総額1億円を超える破格の賞金も目玉だが、競技で高い評価を受けたアイデアが、すぐに社会実装やビジネスに繋がるチャンスが得られるかもしれない点が最大のインセンティブになる。

大学や研究機関は、AI(人工知能)やセンシング技術など、最先端の技術を追求している。一方、企業は実務で培った技術やノウハウを導入し、ビジネスとして活用できる実用的な技術を取り入れる。社会の課題から生まれたタスクを解決するには企業チームが有利となるようだが、大学や研究機関の尖った先進技術も見ものだ。